

黒岩祐治

明日を語るふ

1999 12/1 ~

春奈ちゃん殺人事件に思ふ

目次

春奈ちゃん殺人事件の背景に思う。.....	3
今回の事件について	4
朝日新聞6日春奈ちゃん事件の特集について	5
家庭での父親の役割	7

春奈ちゃん殺人事件の背景に思う。

赤沼侃史

投稿日 : 99年12月1日<水>21時52分

春奈ちゃん殺人事件の犯人が捕まったとき、**殺人の動機**として犯人の娘の**受験**のことが問題になった。

次に犯人の息子の入学試験の失敗が問題として取り上げられた。確かにドラマとしてはこの二つで殺人の動機になるのかもしれないが、犯人は二人の子供を育てている母親である。ふつうの母親なら幼い子供を守ろうとする本能的な物を持っている。たとえ母親が幼児教育に夢中になり、子供が見えなくなっても、計画的にそう簡単に子供を殺せる物ではない。女性は必ず幼い子供をまもろうとする能力を持っているようだ。それは理性の外にあり、猿でも認められている。

ではなぜ犯人は春奈ちゃんを**計画的**に殺したか？理性的に、普通の人分析可能な条件で殺人を犯したのなら、犯人は殺人に必要な思考（回路）を持っていたことになる。

ところがその点に関しては大きな**バッグ**をあらかじめ用意しておいたと伝わってきているだけで、それ以外はどうも成り行きのような。春奈ちゃんの死体の入った**バッグ**を持って母親の前に現れるという危険を犯したこと、それでいて冷静に受け答えをしていること、これらを総合すると、激しい怒りが犯人をこのような行動に駆り立てたように感じられる（神戸の連続通り魔事件を連想する）。犯人の情動がこれらの行動にかき立てたように感じられる。

怒りの対象は春奈ちゃんではない。春奈ちゃんの母親である。春奈ちゃんの母親が犯人にどのような嫌悪刺激を与えたのかは、**公園デビュー**の話しかまだ伝わってきていない。私も公園デビューでのトラブルについていろいろと相談には乗っているが、それだけで自分を殺人に駆り立てるような怒りを感じる女性はまずないと思う。

これから先は勝手な推論であるが、犯人と春奈ちゃん一家と、全く関係ないところで、**犯人**は何か**追いつめ**られていたと想像される。それと似たこと（**条件刺激として区別できない**）が**春奈ちゃん一家**と**犯人**との間に生じ、**犯人の情動**が**暴走**し、怒りが春奈ちゃんに向けられたのではないかと勝手に想像している。

今回の事件について

刈田 暁

投稿日 : 99年12月6日<月>05時56分

今回の事件については、もっとも衝撃に走ったのは、[容疑者](#)が、以前に[看護婦](#)をしてたことです。人の命を差さえあって、助け合っていた人が、今回の事件（しかも子供相手に）を起こしてしまったことに大きな衝撃をうけています。

[自分の感情](#)から[爆発](#)したのか、自分の子供の、これからの先のことを考えてやっない、子供は望んではなかったはず。この先、取り残された子供はどうなるのでしょうか？

誰にも相談できず、あまりに一人で、いろいろな悩みを抱え込んで事件になったのかもしれないと感じています。ただ、殺人は決してしてはいけないことです。

朝日新聞 6日春奈ちゃん事件の特集について

赤沼侃史

投稿日 : 99年12月7日<火>10時17分

春奈ちゃんの母親から、「春奈ちゃんの母親との深い心のぶつかり合いで、とても言葉に表せない。」という言葉以外、その後未だに殺人を犯した理由は聞こえてこない。昨日6日朝日新聞で犯人の心の内の分析が載っていた。いずれも誰でも言いそなことで特に目立った分析が無かった。あるテレビ番組では、犯人の反省の反省の態度すら見られないとのコメントもあった。

春奈ちゃんの母親は「お受験」で一生懸命になっていたことは間違いない。では犯人はというと、当人は「お受験」を否定している。それは言葉の上だけ、意識の上だけであり、潜在意識では、やはり「お受験」の流れに乗っていたのだとおもう。専業主婦なのに、2歳の自分の娘を保育園に入れているのはその可能性がある（母性が働けば、3,4歳までの情動が確立するまでの期間は母親は自分の子供を可能な限り自分の元においておきたいと自然に感じるはずだと思います）。

私が言いたいのは犯人が言葉で言うことと、その潜在意識の願望とは異なる可能性が高いということです。その結果として、春奈ちゃんの母親への怒りを認識していてもその原因を、犯人は認識していないのではないかと思われる節があります。

犯人の夫が子育てを妻に任せきりで、犯人の苦しみを聞いてあげていない、それと同じような風潮が日本にある、と夫婦間の問題を掲げている人もいました。このことは一口では言えないのでここでは深入りはしないが、妻と夫との分業にはそれなりの意味があり、現在のように妻に知識が豊富になり、家庭内での妻の立場の強化は、夫の家庭内での積極的な役割を無くしている事実を忘れていない。

つまり、多くの夫は妻がいろいろと悩んでいて、その相談を夫にしても、意見は聞き入れないし、聞き入れる準備ができていても、夫は子育てには無知なことが多いです。専門家が言うほど、妻の訴えを聞くのは夫には楽な仕事ではない。

前回のMSGにもっと踏み込んで言うなら、犯人の「お受験」は夫の僧としての家庭内の方針とはぶつかり合い、妻は「お受験」を意識の上ではあきらめている。

しかし、潜在意識では「お受験」を信奉している。その結果は夫への潜在化した怒りとなっているはずだ。その怒りは強くなればなるほど、何かの折りに暴走することになる。

その怒りの中で、春奈ちゃんの母親とのつきあいからの抑圧は、春奈ちゃんの母親への怒りを増強し、条件反射として春奈ちゃんのそばにいる春奈ちゃんへ怒りが向けられた。

情動が暴走すれば、思考は情動に従うことは神戸の連続通り魔事件で見られたのと同じである。あたかも犯人の意志で春奈ちゃんを殺害したように見えるが、犯人の思考は犯人の情動にしたがわせられただけで、犯人の意志が主体性を持って犯罪行動を起こしたわけではないので、犯人もなぜ自分が殺人を犯したのか、自分の意志では知ることができない。

これはあくまでも今まで新聞で報道された事実を脳科学心理学的に分析した物である。

家庭での父親の役割

投稿者：赤沼侃史

投稿日：99年12月9日<木>10時51分

12月8日朝日新聞で春奈ちゃん殺害事件の背後にあるものとして、父も考えると言う記事があった。父親の家庭内での役割を問う物だった。もちろん父親の役割、母親の役割は、その家庭でその家庭なりに決めれば良いことであるが、男の、女の、思考形態、感性、などは異なる部分が広くあるのが当たり前（脳においても、生理においても）で、父親と母親が家庭内で同じ事をする事は難しい場合が多い。

特に子供との関係では子供はまず母親を求めることは、すべてのほ乳類に共通な事実であり、その役を父親が果たせないことが多い。そのような意味で母親の家庭内での役割が父親より遙かに大きいことはやむを得ないことであり、十分に母性が機能している母親なら、それも納得のいく物であると考えられる。だからといって、父親が家庭を顧みないで良いという議論は成り立たない。

子供は父親の存在意義をしっかりと感じている。子育てに忙しい母親を支える父親の姿は、子供からは尊敬のまなざしで見られている。現在の父親の問題点の一つは、父親が母親を支えて（この内容は一概に規定できない。個人間の関係で決まるが、主たる物は無条件で相手に奉仕することになる。子育てにおいては場合によっては父親が母親の代わりをすることも含む）いないことである。子育ての密室と言う表現があるが、その言葉からは父親が子供を母親に押しつけて、父親は別世界に生きているような感じを与える。

夫婦共稼ぎ、主夫なら、父親が育児に直に関係するのは当然である。それでも子供がことあるごとに求めるのは父親よりも母親であることを忘れてはならない。母親とのスキンシップには、父親では与えられない物がある。それ故により母親を支える父親の役割が大きくなる。

昔、専業主婦に関して、三食昼寝付きと言う言葉があった。現在の母親はなぜ忙しすぎるのだろうか？確かに乳幼児の子供の面倒を見るのは大変な重労働である。父親と母親との関係は当時とほとんど変わっていないと思われるのだが。そのことは後ほど。